

平成29年度 研究紀要 第222号

# 調査課題研究

カリキュラム・マネジメント  
についてのアンケート

～アンケート結果の報告と考察～

胆振教育研究所

## 《巻頭言》



# 調査課題研究に関する 研究紀要の発刊にあたって

胆振教育研究所長 安宅 錦也

(登別市立富岸小学校長)

胆振教育研究所では、各学校において有効に活用できることを目指して、今日的な教育課題や管内の現状等についての調査を行い、研究紀要にまとめています。

平成29年3月に「次期学習指導要領」が告示されました。その前文では、「子どもたちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあります。技術革新により、これからの社会が大きく変わることが予想される中で、未来を生きる子どもたちが多くの変化に対応していくための力を育てていくことが求められます。

未来を生きる子どもたちに必要な教育の在り方を具体化し、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てたものが「教育課程」です。次期学習指導要領の改訂のポイントの1つである「カリキュラム・マネジメント」は、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことを目的としています。

そこで今年度は、「カリキュラム・マネジメント」を調査課題に設定し、各学校の教育課程の編成、評価や改善における実態と現在の課題などを調査し、その結果を各学校へ研究のまとめとして還元することとしました。

本調査研究では、「教育課程の編成や評価・改善」と「学校内外の人的・物的資源の活用」の現状の他、「カリキュラム・マネジメントについての課題」等についてアンケート調査しましたので、今後の各学校での取組にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査研究にかかわり、アンケートのご協力をいただきました胆振管内の各小中学校をはじめ、貴重なご意見等をお寄せいただきました関係機関の皆様に対し心からお礼を申し上げ、研究紀要発刊にあたってのご挨拶といたします。



# も く じ

巻頭言	胆振教育研究所長 安宅錦也
本調査の概要	1
アンケート結果	
1 「カリキュラム・デザイン」について	3
Column コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）って？	8
2 「PDCAサイクル」について	10
Column 道德教育における「カリキュラム・マネジメント」	18
3 「内外リソースの活用」について	19
4 その他	33
アンケートを通して見えてきたこと	39
カリキュラム・マネジメントの実現に向けて	
1 新学習指導要領における「カリキュラム・マネジメント」の規定	40
2 「カリキュラム・デザイン」	40
3 「PDCAサイクル」	42
4 「内外リソースの活用」	43
5 おわりに ～ なぜ、今「カリキュラム・マネジメント」なのか？	43
参考文献	44
平成29年度 所員一覧	44
あとがき	45

# 本調査の概要

## ■ 調査の趣旨及び目的

小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から、次期学習指導要領の全面実施にあたり、各学校で新しい教育課程を編成していくこととなります。

論点整理では『「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて』の中で、目指すべき目標を社会と共有・連携しながら教育課程を実施していくことや、新学習指導要領では新しい時代に必要となる「子どもたちが身に付けるべき資質・能力」が明記されています。そして、学校全体として教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るためにカリキュラム・マネジメントを確立させることが、改訂のポイントの1つになっています。

そこで、胆振教育研究所では、管内小・中学校（苫小牧市、室蘭市を除く）での今までの教育課程の編成について「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面である「カリキュラム・デザイン」、「PDCAサイクル」、「内外リソースの活用」を切り口としてアンケートを実施することといたしました。

## ■ 回答者

胆振管内（苫小牧市、室蘭市を除く）の小・中学校の学校長・教頭・主幹教諭・教務主任の先生にアンケートを行い、管内の小学校39校・中学校21校、計60校にご回答いただきました。

## ■ 回答方法

回答用紙に選択肢から当てはまるものを選んでいただき、番号で回答していただきました。記述式で回答いただいたものについては、一部編集して取りまとめて掲載させていただいております。

## ■ 「カリキュラム・マネジメント」のおさえ

### （1）次期学習指導要領における「子どもたちが身に付けるべき資質・能力」

- ① 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）
- ② 理解していること、できることをどう使うか  
（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか  
（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

## (2) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて（「論点整理」H27. 8）

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り開いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。



### (1)・(2) から

- それぞれの教科等で育成を目指す資質・能力を整理
  - 各教科等を学ぶ意義を明確化
- 特定の教科等だけではなく、全ての教科等のつながりの中で育まれる。
  - 例) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等
  - 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力



### カリキュラム・マネジメントの実現を目指す

- 教科等を越えた横断的な視点で教育課程を見渡す。
- 教育内容の質の向上に向けて教育課程の検討・改善を行う。
  - 教育課程全体としての効果が発揮できているかどうか？
  - 教科等間の関係性を深めることでより効果を発揮できる場面はないか？

### カリキュラム・マネジメントの3つの側面

#### ①カリキュラム ・デザイン

各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。

#### ②PDCA サイクル

教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成・実施・評価して改善する。

#### ③内外リソース の活用

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る。